令和７年度　日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

２０２５０１２

プロジェクト名　水道蜂プロジェクト‘25

プロジェクトの概要

ミツバチは蜂蜜の生産や受粉を担い、我々の食を支える不可欠な存在だ。しかし、温暖化や農薬汚染により個体数が減少している。この課題に対し、都市部での生態系保護を目指す「都市養蜂」が注目されている。本プロジェクトでは、千代田区のビルキャンパスでの養蜂と蜂蜜生産を目標に掲げた。飼育を通じミツバチの生態や環境との相関を深く学び、蜜源植物の拡充を推進することで、都市における生物多様性の向上と持続可能な環境づくりを実践した。

プロジェクトの結果・成果

前年度に構築した専門家による支援体制のもと、2025 年 4 月 8 日、経済学部 3 号館屋上に 2 群を設置し、飼育を開始した。運用面では安全確保を最優先とし、常に 2 名以上で作業にあたる体制を徹底した。ミツバチの活動が最盛期を迎える夏までは週 2 回、活動が落ち着く秋以降は月 1～2 回と、生態サイクルに応じた適切な頻度で内検（巣箱内観察）を実施した。特に世界的な課題であるミツバチヘギイタダニに対しても、専門的知見に基づいた防除を施すことで、蜂群崩壊の阻止に成功した。一方で、2 群で臨んだ越冬において、給餌不足から 1 群を失う結果となったことは、飼育技術の深化に向けた次年度への重要な教訓となった。

飼育初年度ながら、6 月と 7 月の計 2 回で 41kg という極めて良好な採蜜成果を得た。遠心分離機を用いた採取から瓶詰めまでの一連の工程を経験したほか、「全国学生養蜂サミット 2025」のはちみつ品評部門において最優秀賞を受賞し、本学産蜂蜜の品質と食味が客観的にも極めて高い水準にあることを証明できた。収穫した蜂蜜は本プロジェクトを支援していただいた教職員へ配布したほか、オープンキャンパスや三崎祭でも提供し、本学独自の特色ある取り組みを広く発信した。あわせて、三崎祭でのワークショップ実施や SNS での発信を通じ、地域住民や保護者へ都市養蜂の多面的な意義を体験的に伝える機会を創出した。

広報面では、BS フジ「東京会議」や TOKYO FM、雑誌『Pen+』、入試パンフレット等、多角的なメディア露出を実現し、社会的に大きな注目を集めた。学内展開としては、学食にて「蜂蜜入りチーズケーキ」を提供し、蜂蜜の活用と学生への還元を実現した。さらに、外部勉強会への参加を通じて他校とのネットワークを拡充するとともに、年度末にはこれら一連の成果と課題を共有し、次年度の活動基盤を確立することができた。

活動写真





